

	一行目	筆記用具	原稿用紙			備考(書き込み等)
			大きさ	種類	枚数	
1	新しい季節がくる度に「着るものがないなあ」という感想を	鉛筆	B4		2	夏の詩・夏の思い出 書きかけ
2	いちにちどこへもゆかずせまい家の中で暮らすことが多くなった。	鉛筆	B4		12	書きかけ
3	いちにちの時間のやりくりが下手で、私の洗たくはよく真夜中に	ボールペン・青	B5		1	書きかけ
4	いま狼いまだ老いず、読んでいます。	鉛筆	B5		2	湯浅芳子の著作について 書きかけ
5	駅の雑踏でうぐいすの声をきいた。	鉛筆・青	B5	紀伊國屋	3	書きかけ ボールペン/B5/3枚バラ草稿
6	大きいものを造ると人間は大きくなるのか小さい人間がつくる	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
7	思い出話をするほど、私は年をとってしまったのかもしれない。	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	2	書きかけ
8	遠地さんに付いて私は知っていることがほんの僅かしかない。	ボールペン・青	B5		3	遠地輝武(木村重夫)追悼文(1967年)か?
9	会社に庭がある。コンクリート建の事務室には窓がない。	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
10	帰りみちに、ちょっとした暗がりがある。	ボールペン・青	B5		2	題名「さみしい道」書きかけ
11	北鎌倉で電車を降りると傘をひらいた。	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
12	気のちいさい私は、ちいさい時から母をはじめ、家人の死に目に	万年筆・青	B5		1	書きかけ
13	逆説のない方だけ、女の人がもっと社会に向かって創造的に	鉛筆	B5		2	書きかけ
14	去年の夏突然、とは映画の題名だけれど、そのタイトルを	鉛筆/ボールペン・青	A4		8	1959年 書きかけ
15	去年の冬、私は夜あけの空が地平線すれすれに一筋、	鉛筆	B4		1	書きかけ
16	銀行から外の会社へまわされていましたが、また古巣の銀行へ	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
17	現在私のさいふに、鹿の骨でほった羊の根付けがさがって	万年筆・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
18	国電の乗換駅でホームを渡るため階段口に来た私は	鉛筆	B4		8	書きかけ 裏面 詩「今日の十二時」(1982.3発表)草稿
19	ご葬儀の会場で、会田綱雄さんが朗読された詩。	鉛筆	B4		1	1977年? 鉛筆・B5×2 石原吉郎追悼文 別冊小説新潮S50年夏季号の掲載の詩について
20	今年の冬、はじめて飛行機に乗った、というより乗せられてしまいました。	鉛筆	B4		2	1980年
21	この間、プライダル何とか、というショウの受付で知人と待ち合わせ	鉛筆	B4		2	書きかけ
22	この間まで職場の関係で市ヶ谷へ通っていた。	万年筆・青	B5	紀伊國屋	2	書きかけ
23	このごろ、交通事故などで意識不明になりそのまま何ヶ月も	鉛筆	B4		1	書きかけ
24	このごろ、はじめての人に逢ったとき、話のつき穂に	鉛筆	B5		4	鉛筆・青・B5・2枚 書きかけ
25	この詩は、本棚の上のカットグラスに投げ入れておいた菊をみて	ボールペン・青	B5		2	「花」(『表札など』)について 書きかけ
26	この本をよんでいると心がやさしくおだやかになってゆく。	鉛筆	B5		1	書きかけ
27	これもごく自然に、ものを読み、自分も書きはじめ、それが詩のような	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
28	こんどあらためて、この30年間に自分がなにをし、何を考えて	万年筆・青	B4		2	
29	昨年の二月、東京都江戸川区の小学校へよんでいただきました	鉛筆	B4		1	書きかけ
30	昨年、私は二つの液体に心をうばわれた。	鉛筆	B4		1	書きかけ
31	四十を越して五十になっても、娘であることに相違なかった。	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
32	私鉄の駅を降りると、片側が線路の土手になっています。	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	2	書きかけ
33	詩にとられることさえわすれらわしいばかりで、私は私に	鉛筆	B4		1	書きかけ
34	詩はウズミのようなものだから出来たものがいまいかわるいか	鉛筆	B4		1	書きかけ
35	事務員としての仕事には、あまりスリルはなかった、と考えていたら、	鉛筆	B4		5	途中から バラ草稿
36	社員旅行で伊豆の下田へ行ったとき、東海岸を走るバスの窓から	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
37	受話器を片手に、ダイヤルをまわすことで大阪でも四国でも	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
38	商品には納期というものがある。このごろ詩や文章を依頼される	万年筆・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
39	職場の文具備品の中に、祝儀袋と香袋がある。	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
40	菅野照子 りんの親友 少女時代、祖父の日記にそう書いてありました。	鉛筆	B4		1	裏面「洗たく物」1974.6『略歴』所収
41	すでに出来上がってしまった関係、そのはらいで、	鉛筆	B4		1	書きかけ
42	戦後、品物の乏しいとき、転勤して行く会社の知り合いに、	ボールペン・青	B5		1	書きかけ
43	戦後二十五年たった、という。私にとっては二十四年でも	ボールペン・青	B5		1	書きかけ
44	そのときは何でも	鉛筆	B4		1	書きかけ
45	その人はいい感じです。言われる通りキカイのように働くだけの	鉛筆	A5		1	書きかけ
46	それが、毎週一度日をきめてやってくる雑貨屋さんの呼び声だと	鉛筆	B5	紀伊國屋	12	
47	それはもう、そういうものだと思いこんで育った。	鉛筆	B5	紀伊國屋	2	
48	たったこれだけの短い文章をかくのには私はどれほど難儀したこと	鉛筆	B5		1	書きかけ
49	食べ物と同じように、言葉にもあまり好き嫌いの無い方だと思っています。	鉛筆	B5		1	書きかけ
50	ついこの間、つとめの帰り土手の下のくらい道を歩いていますと、	鉛筆	B5	紀伊國屋	2	書きかけ
51	ついこの間まで今は使い捨て時代、などといっていたのに	鉛筆	B4		1	書きかけ
52	つとめを終えると定期券がなくなるから電車にのるのに、	鉛筆	B5		1	書きかけ
53	つとめをやめたら、君はものが書けなくなるだろう、だから	鉛筆	B4		1	書きかけ
54	どういわけか興流会にはいるのがたのしみでした。	万年筆・青	B4		2	興銀関係への原稿
55	東京の街中に住んで、緑や花とは縁うすい月日を送った。	鉛筆	B4		2	
56	どちらも電車の中のことです。	万年筆・青	B5		6	ボールペン・青・B5・4枚 書きかけ
57	土手の上に、桜の木が何十本も並んでいた。	鉛筆	B4		1	
58	長い間、詩のようなものを書いてきた。	万年筆・青	B5		1	書きかけ
59	はじめ、私は好きなことをしたくて、そのために働くことをしたのですが、	鉛筆	B4		1	書きかけ
60	「ひとりで暮すようになると、」そこまで言って先輩格の友人は	ボールペン・青	B5		3	
61	病院に入院、女六人の相部屋に半年近くいたことがあった。	鉛筆	B5		2	「沈んでいる」と同趣旨 書きかけ
62	ふだん、あら?とったり、不思議だなあ、と立ちすくんだり、	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
63	便宜上、私の書いてきたものを詩、ということにいたします。	鉛筆	B4	満寿屋製	1	書きかけ
64	民宿に泊まって、前に一人しかはいらない、まだきれいな湯を	ボールペン・青	B5		7	7枚一組ではない 書きかけ
65	もう何年も、いうより、何十年も書きなれてきた、たとえば起債市場	万年筆・青	B5		17	17枚一組ではない
66	ものの食べかた、くわしくいえば箸の持ちかた、はこびかた、	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
67	ゆうぐれの中で光がうせたとってみせてくれる。	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
68	列車を降りると、	鉛筆	A4		6	小説冒頭 支店長の家を訪ねる若い女性
69	若い日、毎日〇かう鏡台の横に、かなり長い間、純粋という	鉛筆	B4		1	書きかけ
70	私が高等小学校を出て働きに行くといったら、父はせめて夜学の	鉛筆	B4		1	書きかけ
71	私が退職したとき送別旅行の夜に、二人の独身女性に上司が	鉛筆	B4		1	書きかけ
72	私が四ツのとき母は死に母親がいなくてお前のピンボウだ、	鉛筆	B4		1	書きかけ
73	私どもの国がどんなにハンエイしていたとしても、周囲を	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
74	私に名はありますが、有名か無名か、という段になると、無名と	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
75	私の経済的成長は高度とはいえなけれど四十年近く働いて	鉛筆	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
76	私の知り合いに、山みちなどでキノコをみると足がすくんで	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
77	私の住んでいる所には土がありません。	鉛筆	B5	FM東京	2	
78	私はあまり旅をしない、外国旅行も、北海道も知らない。	鉛筆	B5		1	鉛筆・B5・1枚×2 書きかけ
79	私はいつも、いちばん大事なものを粗末にしてしまう。	鉛筆・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
80	私は会社につとめているので、そこでは色々な仕事をたのまれる。	万年筆・青	B5		2	書きかけ
81	私は数え年十五才でした。事務員見習員、ひらたく言えば	ボールペン・青	B5		1	書きかけ
82	私は木をみるとさわりたくなる、いつからそんな仕草をはじめたのか	鉛筆	B4		1	書きかけ
83	私は三年ほど前、現在のアパートに引っ越してきた。	鉛筆	B5	紀伊國屋	5	1976年ごろ
84	私はすっかり忘れていました。	鉛筆	B4		2	書きかけ
85	私は旅を知らない。旅をしたことがない、といったらうそになる。	ボールペン・青	B5	岩波書店	4	ボールペン・青・B5バラ5枚 四日市取材について
86	私は東京で生まれ、東京で育ちましたが、今もって本籍は	鉛筆	B4		3	書きかけ
87	私は何かひとつの事実につづからないと詩が書けない、	鉛筆	B4		1	書きかけ
88	私は日本の国に生まれ、国と私とは土とそこにはえた草のように	ボールペン・青	B4		3	途中から鉛筆 書きかけ
89	私は入行前から詩をかいてきた。	鉛筆	B4			書きかけ
90	私は働こうと思いました。	ボールペン・青	B5		4	4枚別原稿、内容は重なる
91	私は人のすることによく気をとられる。	ボールペン・青	B5	紀伊國屋	1	書きかけ
92	私は物を書くのがとても下手です。下手の横	鉛筆	B5		1	書きかけ
93	私はわりあい物持ちのよい方です。	鉛筆	B5		4	